

## 「伝統と創意」

## 広報紙 書くよろこび

第  
11号

■文部科学省

初等中等教育局長寄稿

1面

■座談会 書写書道教育の今後 2~5面

6~7面

■ユネスコ無形文化遺産登録を 8~9面

10~11面

■書写書道教育の現場は 12~13面

14~15面

■文化人インタビュー 16面

■第12回手書き文字ばんざい!

■主催書道展報告

■創立70周年記念式典

私たちも児童生徒一般すべての人々の書写の環境を整え、豊かな心を取りもどすため総力をあげて「手書き文字の振興」に取り組んでいます。



私たちも「日本の書道文化」のユネスコ無形文化遺産登録を応援しています。

## 豊かな心は手書き文字から

寄稿

文部科学省  
初等中等教育局長

藤原 誠 氏



昨年の4~5月、大阪市立美術館で特別展「王羲之から空海へ——日中の名筆漢字とかなの競演」が開催されました。これは、書聖・王羲之の書の伝承と発展を中国・日本の名品によって俯瞰した展覧会でした。

## 小・中・高全体で目指す書写社会に生かす教育

品約120点が展示されました。我が国は中国から漢字を受容し、平仮名、片仮名という独自の文字を発展させ、それを交えて書くこという世界に類例がない豊かな文字文化を成立させました。その我が国の書文化の広がりや価値について再認識する良い契機になったと思います。

現在、学習指導要領の改訂に向けて具体的な議論が進められています。平成28年8月26日には、中央教育審議会教育課程部会から、新しい学習指導要領の姿を示す「審議のまとめ」が公表されました。今回の改訂では、各教科等で育成を目指されています。

特に日本書跡では空海ら三筆、小野道風ら三跡、そして「高野切」等の平安古筆から江戸期に至るまでの優れた、現実的な「手書き」の実現を目指したアクティブラーニングの実現が示されました。この中では、書写能

て、「現代の国語(仮称)」と「言語文化(仮称)」を設定する方向性が示されました。この中では、書写能

力も実社会・実生活に生かすことや、古典の作品と書体等との関わりから多様な

国語科書寫から高等学校国語科書道への円滑な接続、

高等学校国語科との関連を図つていく書写・書道教育の全体構造が整理されるこ

となるでしょう。

こうした状況の中で、公

益社団法人日本書芸院が進める「文字・活字文化の日」の記念イベント「手書き文字ばんざい!」、生涯学習社会を見据えた全世代を網羅する書道展の開催、文

字文化を伝える広報紙等の発行は、書の伝統

と文化を深化させ次世代へと継承

させる上で、大きな役割を果たしていると言えるで

しょう。

手書きの大切さをばらし

きを伝え、その輪が広がることを期待しております。

## 文字・活字文化振興法の骨子

【目的】 文字・活字文化の振興策を推進し、知的で心豊かな国民生活および活力ある社会の実現に寄与する。

## 【基本理念】 国民が等しく豊かな文字・活字文化の恵みを受ける環境を整備する。

文化の振興策を策定し、実施する責務がある。

【地域での振興】 市町村は公立図書館を設置する。

一、日本の伝統文化芸術を守り育もう  
一、すばらしい日本語の心を伝えよう  
一、心を映す文字をより大切にしよう  
一、書く楽しさ喜びを通して健やかな心を養おう  
一、美しい文字で潤いのある豊かな人生を送ろう

【目的】 文字・活字文化の振興策を推進し、知的で心豊かな国民生活および活力ある社会の実現に寄与する。

【基本理念】 国民が等しく豊かな文字・活字文化の恵みを受ける環境を整備する。

【地域での振興】 市町村は公立図書館を設置する。

【国際交流】 文字・活字文化の海外への発信を促進。翻訳の支援をする。

【文化】 国民の关心と理解を深めるため、

とする。

【国際交流】 文字・活字文化の海外への発信を促進。翻訳の支援をする。

【文化】 国民の关心と理解を深めるため、

# 書写充実へ期待

中教審が答申

書教育の充実へ活発に議論

文部科学相の諮問機関「中央教育審議会」(会長=北山禎介・三井住友銀行会長)は平成28年(2016年)12月、小中高校の平成32年度(20年度)以降の教育内容を定める次期学習指導要領の基本方針を文科相に答申した。これを受けて日本書芸院では、審議に参加した識者らを招いて、「書写書道教育の今後——新・学習指導要領の改訂の方向——」をテーマに座談会を開催した。



答申では、小学校、中学校での書写を、高校の国語の中に延伸するという考えが

示されたほか、高校の国語では「国語総合」に代わり、書く力や話す力を養う「現代の国語」と日本語に関する文化などを学ぶ「言語文化」の2科目が必修となるなど、「文字文化」が改訂のキーワードのひとつとなった。

座談会では、今回の基本方針に対して、「文字文化」という骨格が通ったことで、書写書道教育の充実に向けて、期待がふくらむ」といった受け止め方が示され、「書写書道教育の具体的なあり方がいつそう問われている」「次期学習指導要領の内容が、各学校で確実に実施されるよ



うに、見守っていく必要がある」といった意見が出された。

(座談会は平成29年1月21日に東京都内で行いました)

黒田　本日は改訂の骨子について、様々な角度から解説をいたしました。今後の書写書道教育はどうあるべきかについて、忌憚のない意見を交わしていただきたいと思います。

加藤　本日は中教審の答申の内容に則して、お話をさせていただきます。今回の改訂では、各教科科目を通して、どのような資質・能力を身に付けるのかを明確にすることが重要になっております。「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」という3本柱で、育成すべき資質・能力を整理しました。具体的な答申のポイントになりますと、国語科では「学習過程に着目した指導の改善・充実を図る」ということで、結果ではなく、過程をいつそ重視し、その視点が盛り込まれています。2点目は「学生別漢字配当表」に都道府県名に用いる

黒田　本日は改訂の骨子について、様々な角度から解説をいたしました。今後の書写書道教育はどうあるべきかについて、忌憚のない意見を交わしていただきたいと思います。

加藤　本日は中教審の答申の内容に則して、お話をさせていただきます。今回の改訂では、各教科科目を通して、どのような資質・能



加藤 泰弘氏

漢字を加えたことや、「我が国の言語文化を享受する」ということが強調されています。これは書写教育では「文字文化」につながるということで、「文字文化」が今回の改訂のキーワードになっていくと言えるでしょう。

## キーワードは「文字文化」

う。さらには、高等学校の国語科の科目を大きく見直しました。実社会・実生活に生きて働く国語の力を育成する「現代の国語」と、言語文化への理解を深める「言語文化」を共通必履修科目として設定しました。

高等学校の芸術科(書道)に

答申の本文に則して、書写と書道の円滑な接続という視点で申し上げるならば、今回の答申の示す方向について、「高等学

校芸術科(書道)との円滑な接続を図る必要がある」という記載があります。

この部分が高等学校の国語科の中にいわゆる「書道」が今回の改訂のキーワードになつて

いると言えるでしょう。

修科目に「現代の国語」「言語文化」を新しく設けるとしており、ここで小・中学校での書写の学習を深めることになります。

もうひとつは、伝統文化、言語文化の学習をいっそ重視する

ことを受けて、「文字文化(書写)

を含む)」についての理解を深め

る観点から整理を行って、改善を

おこなうことが示されています。

そのため、「文字文化(書写)

</





# 「美」へつながる書写の理念



## 国語の先生方も好意的

平田 かつて習字と呼んでいた時代を含め、書写教育の位置付けについて、特に国語の先生方と様々な議論がありました。国語ワーキンググループの中で、国語の先生方が、書写に関してどんなお話をされているのでしょうか。文字文化という背骨が通っていますので、今までよりは好意的に受け止めています。

高木 書写書道に関する改訂が、どのくらいの力を持つのでしょうか。これまで実感として、小学校の現場で「こう変わったな」というものをお持ちでしたら、教えていただければ。また、せっかく、改訂が進められるのであれば、何とかそれを現場で生かす方策を取らないともったいない気がします。何らかの方法で授業時間数だけでも守ってもらえるように、進める方法はないでしょうか。

高木 厚人 副理事長

うことですね。変わった部分が教科書にどこまで特化した形で表れるかによっても、影響は違います。具体的に言つと、現行の学習指導要領は毛筆のための記述がとても増えた。以前のものと比べて格段に多かったです。例えば、点画のつながりなど。先生方に、少しでも意識が芽生えてくれると、変わることはあります。何かでダイナミックに伝えていく努力が必要かもしれません。

田中 真神 巍堂 副理事長

るみる変わります。そういう力を子供は持っています。こういう活動がもっと全国に広がっていってほしいものです。

井上 今日の座談会で先生方のお話を聞きし、改訂の理念がよく分かりました。学校現場に身を置いている者として、中小学校の国語の教員と高校書道教員との連携など、理念を実現するために具体的にどう進めればよいのか早くから考えていく必要があると思います。

宮澤 書写が息づいてゆくには、伝統的な書き初めも必要だと思います。書き初めを国連教育・科学・文化機関(ユネスコ)の無形文化遺産に登録しようと、この運動を続けておられます

黒田 書道に関する者として、本日お招きした先生方に、

もらっているという期待もあります。

宮澤 様々な方がおられる中での議論ですが、ある先生から「書くということはとても重要である」という趣旨の発言がありました。それが書写をしていました。それは思いませんが、「こういふ時代だからこそ」という趣旨でのご発言はありました。また、私からの書写教育に関する説明に対しても、反論、異論はありませんでした。



## 社会に関わる学習活動

の力はすごい」というのが定説になっています。そこで、プロの書家と、企業との接点を作り、そこで、表現する喜びを感じてもう一つのことは、今の先生のお話の延長にあると思います。

加藤 パソコンなどが普及して、毛筆や手書きがなくなるのではないかということが言われたことがあります。しかし、現在、国語に関する世論調査でも、手書きの価値というのは確実に見直されています。そうしたことが、今回の改訂の中身にも関わっていると思います。私は社会に開かれた教育課程という点から障害者に対する指導、特別支援での筆文字

です。

小中高校での筆文字の教育のあり方の中で、文字文化の大きな領域として、筆文字の発信の基礎作りの経験を、子供たちにさせることも大事なのかなと考えております。

中村伸夫 文字文化の中の書写、高校の国語の中の書写があり、二つの大陸が合体した意味は画期的なことだと思います。

昨日、職場で建築の先生の退盲

記念の席で、「世の中、街の中に、筆文字があふれている」という話になりました。例えば商品開発のための筆文字、映画のタイトル、道路標識、名所旧跡の動きもあってしかるべき。

中村伸夫 文字文化の中の書

り、二つの大陸が合体した意味

は画期的なことだと思います。

昨日、職場で建築の先生の退盲

記念の席で、「世の中、街の中に、筆文字があふれている」という話になりました。例えば商品開発のための筆文字、映画のタイトル、道路標識、名所旧跡の動きもあってしかるべき。

中村伸夫 文字文化の中の書

り、二つの大陸が合体した意味

# ユネスコ登録目指して

平成27年(2015年)4月に日本書芸院と、公益財団法人全国書美術振興会、公益社団法人全日本書道連盟の3団体が発起団体となって発足した「日本書道ユネスコ登録推進協議会」は、「日本の書道文化—書き初めを特筆して—」の登録を目指して活動を続けている。

書き初めや年賀状、のし紙・のし袋への記名、賞状や卒業証書など、日本人の人生の大切な節目には、必ず毛筆文化がある。その中でも特に、古くからの宮中行事を源として、現代の子どもたちにも浸透している書き初めについて紹介する。



私たちは「日本の書道文化」のユネスコ無形文化遺産登録を応援しています。

## 登録対象は5分野

活動の登録対象は、漢字書・仮名書・漢字仮名交じり書を含む日本の書道文化全体。無形文化遺産保護条約で定められた5分野のうち、日本の書道文化は「社会的慣習」としている。この分野には、平成21年登録の「中国書法」や、平成25年登録の「和食」も含まれる。

### \*5分野

- (a) 口承による伝統及び表現
- (b) 芸能
- (c) 社会的慣習、儀式及び祭礼行事
- (d) 自然及び万物に関する知識及び慣習
- (e) 伝統工芸技術



書道の上達を願って筆を持つ人たち=北野天満宮提供

現在でも、学問の神様、書の三聖の一人である「菅原道真公（菅公）」をまつる全国の天満宮・天神社の多くは、正月の伝統行事として書き初めを行っている。なかでも神祀（総本社）である北野天満宮（京都市上京区）では、新年1月2～4日に神前書初奉納「天満書」に多くの人たちが訪れる。

天満書に先立ち、1月2日に「筆始祭」という神事が神職によって厳かに執り行われる。本殿内陣に菅公が愛用したと伝わる「松風の硯」、「角盤」、淨水を満たした「水差し」などをお供え。道真公の御神徳をしのび、書に親しむ人の技芸向上を祈願し、天満書を始める奉告が行われる。

午前10時になると、境内の給馬所には、書道の上達を願う人や、新年の願いをする人が訪れ、真剣な表情で毛筆を握る。参加者は指定用紙にしたためた書き初めのうち、1点を奉納（出品）。奉納作品は1月中旬から本殿前の回廊に展示される。

天満書は、このように北野天

# 北野天満宮に書初奉納

## 作品は本殿前の回廊に展示

書き初めは、古くからの正月の伝統行事で、もともとは宮中の一部の文人の行事から始まったといわれている。江戸時代後期に寺子屋が普及するにつれて、「手習い始め」として庶民にも広まった。元日の朝に初めて「若水」で墨をすり、恵方に向かって唄や詩を、新しい紙に書いた。

現在でも、学問の神様、書の三聖の一人である「菅原道真公（菅公）」をまつる全国の天満宮・天神社の多くは、正月の伝統行事として書き初めを行っている。なかでも神祀（総本社）である北野天満宮（京都市上京区）では、新年1月2～4日に神前書初奉納「天満書」に多くの人たちが訪れる。

天満書に先立ち、1月2日に「筆始祭」という神事が神職によって厳かに執り行われる。本殿内陣に菅公が愛用したと伝わる「松風の硯」、「角盤」、淨水を満たした「水差し」などをお供え。道真公の御神徳をしのび、書に親しむ人の技芸向上を祈願し、天満書を始める奉告が行われる。

午前10時になると、境内の給馬所には、書道の上達を願う人や、新年の願いをする人が訪れ、真剣な表情で毛筆を握る。参加者は指定用紙にしたためた書き初めのうち、1点を奉納（出品）。奉納作品は1月中旬から本殿前の回廊に展示される。

天満書は、このように北野天



全国から寄せられた署名  
要望書を宮田長官（左）  
に手渡す荒船会長（右）  
と河村謙員（中央）

## 推進協 文化庁に要望書を提出

日本書道ユネスコ登録推進協議会は平成28年（2016年）9月、荒船清彦会長（全国書美術振興会会長）らが文化庁に宮田亮平長官を訪ね、書道の無形文化遺産登録を目指す要望書とともに、全国1万4022団体の署名を提出した。

当日は荒船会長のほか、井茂圭洞副会長（日本藝術院会員）、高木聖雨総務部長（全国書美術振興会理事）が、書道国会議員連盟会長の河村建夫衆院議員、関芳弘衆院議員を立会人として訪問。要望書では日本の書道文化が、「伝統行事や冠婚葬祭を通して国民生活に根付き、文化として永い歴史と伝統を有し、国語力とりわけ国民の識字力を根底より支え続けてきた」として、無形文化遺産への登録を申請するよう求めた。

同協議会では道府県で、各人の地域代表委員を選び、同年3月末から約1ヶ月間にわたりて賛同団体署名運動を全国規模で展開した。署名を寄せた賛同団体の中では、都道府県市町村（首長）、教育委員会（教育長）、議会（議長）といった自治体は、1490団体にのぼった。

■ 日本書道ユネスコ登録推進協議会については公式ホームページ（<http://www.shodo.jp>）をご覧ください。

満宮を参拝して行う「神前の部（神前書初）」と、家庭や学校、書道教室などの書き初めを公募する「家庭の部（家庭書初）」がある。神前部、家庭の部ともに、例年約2000点が奉納されるという。なお、奉納作品は審査顧問を務める書家で日本芸術院会員・日比野光鳳氏らの

審査により、優秀作品が表彰される。

北野天満宮では古くから書などを奉納する風習があり、「天神様」にお納めしていた。審査が経た表彰など、天満書の現在の形式が整えられたのは、戦後の混乱が治まった昭和27年（1952年）だといつ。

# 日本の文化「書き初め」



祇園祭の山鉾巡行—読売新聞社(大阪本社)提供

## ユネスコ無形文化遺産登録への流れ

#### ■日本国内の申請案件の候補となる

書道のほか、茶道、華道、和服、将棋、俳句、温泉浴、海女文化などの諸団体が登録を目指している

#### ■日本国内でユネスコへの申請案件を決定

文化庁内の各種審査や、文化審議会の承認などを経て決定される

#### ■日本からユネスコへ提案書を申請

毎年3月、1国1件のみの申請  
登録の多い日本などは、2年に1件の審査となる

#### ■コネスコ評価機関による審査・勧告

■エコ評価機関による審査・勧告  
申請受理翌年の春に審査、11月に事前評価結果が  
締約国に勧告される

#### ■コネコ政府間委員会で最終決着

同年12月に登録の可否が決定  
①記載=登録  
②情報照会=再申請可能  
③不記載=4年間更に請求不可

三六〇

「無形文化遺産の保護に関する条約（無形文化遺産保護条約）」に基づき、「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表（代表一覧表）」に記載される

天満書 巖かな心で臨む

菅原道真公（845～903年）は学問によって朝廷に仕える家に生まれ、幼少から和歌が詠み、漢詩を作るなどいままれなる才能の持ち主でした。後に「文道の大祖・風月の本主」と仰がれました。江戸時代の寺

平成25年（2013年）に伊勢神宮で式年遷宮が行われましたが、当宮でも50年に一度、式年大祭が行われます。「社殿を建てる替えるすなわち「再生する」ことで神威が増すことになります。実は新年の書き始めも同じ

北野天満宮の権現十九宮司に、天満書の由緒などについて語つていただきました。

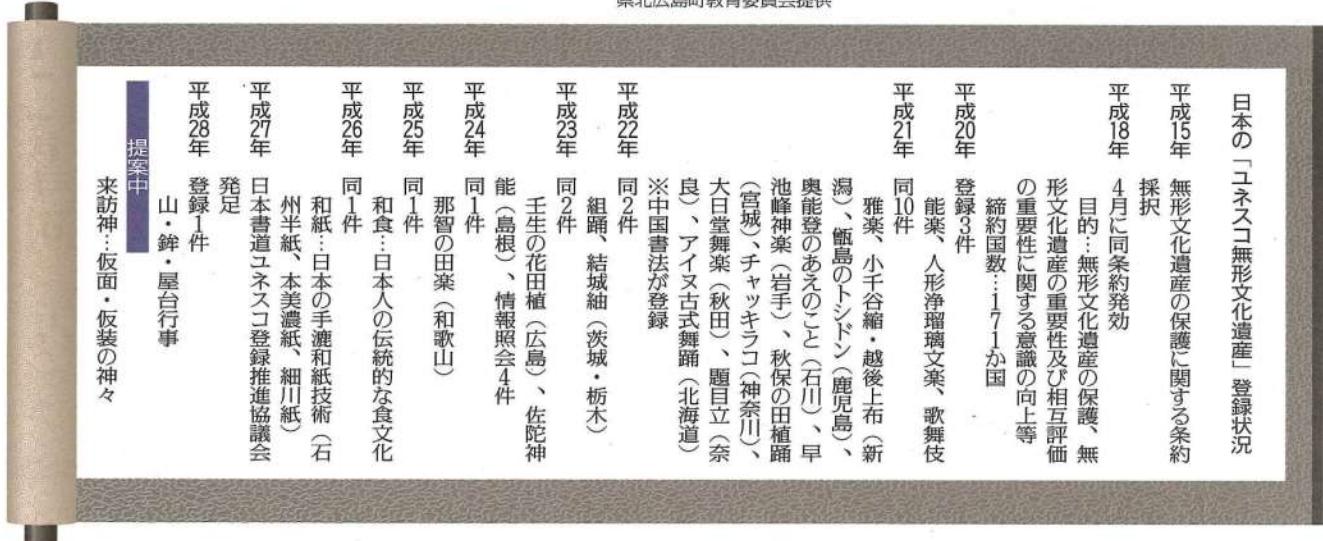
子屋にはその肖像などがなく、  
れ、「学問の神様」として広く  
信仰を集めるようになりまし  
た。



北野天満宮宮司  
橘 重十九 氏



壬生の花田植・代掻き—広島  
県北庄原町教育委員会提供



# 「書の時間」

の全小学校 1年生から学ぶ



愛知県春日井市では、子供たちが、より書に親しむための取り組みとして、平成23年(2011年)から教育課程特例校の指定を受け、市立小学校において「書の時間」を実施。まず、小野小など2校からスタート。その成果を踏まえて、平成27年(15年)には20校、平成28年(16年)からは全37校で書の学習を進めている。

## 専門講師が指導 専用教室も

書道界は小中学校、高校の授業で書写書道教育の充実を求めて、関係団体などが一丸となって運動を続けている。今回は文部科学省から教育課程特例校の指定を受けて、愛知県春日井市で行われている低学年からの毛筆授業「書の時間」の様子を紹介する。

春日井市は平安時代の能書家で「三跡」の一人、小野道風(894~966年)の生誕の地とされる。日本人の感性にあった「優美な和様の書」の創始者の伝統を受け継ぐ子どもたちは、真剣な表情で毛筆を握っていた。



**「書の時間」の目標** 書写・書道に親しむことを通して、正しく整えて表現する力を高め、美意識や自省心の涵養などの感性を育むとともに、自分と身近な人々や伝統文化との関わりや関心を深め、道徳的な心情や態度及び道徳的な実践力を養う。

### 小野小学校

平成28年9月、小野小(宮田健一校長)で「書の時間」にあたる「書道科」の授業を取材させてもらった。

### 「風車の隊形」で互いを認め合う



机は4人1組の風車の隊形

明治23年(1890年)創立の小野小の校名は、平安時代に現在の春日井市で生まれたと伝えられる三跡の一人、小野道風に由来する。「書のまち春日井」わくら小野つ子「めざせ道風」をスローガンに書道教育を進めている。

同小では平成22年(2010年)までは、3~6年生が10時間程度の「総合書写」として毛筆の取り組みを行っていた。平成23年に特例校の指定を受けると、全年年に「書道科」を設け、1年生から毛筆を持つようになった。また、これをきっかけに、教室のひとつを、全年が使える書道科専用の「書写ルーム」として利用。児童数分の水書板や筆などを常備している。

取材したのは1年4組の書道科で、毛筆を使った3度目の水書による授業だった。児童と一緒に書写ルームに入るときに目を引いたのは、4人1組になるように配置された机。同小では「風車の隊形」と呼んでいる。担任の安藤実希教諭の指示で、係の児童が次々と水書板や毛筆を配布。風車の中央、児童の右手に近い位置に、4人が一緒に使う「すみ皿」が置かれた。児童が入室後わずか数分で、授業準備が整った。

児童の右手に近い位置に、4人が一緒に使う「すみ皿」が置かれた。児童が入室後わずか数分で、授業準備が整った。

児童が右手中指と人差し指で筆を持つよ

うにいることが多いという。宮田

校長は「低学年では文字の優劣に

個人差がほとんどない。だから児

童でも、自然に右手で筆を持つよ

うになることが多い」という。

児童が右手中指と人差し指で筆を持つよ



# 人の心

河野 元昭 氏

京都美術工芸大前学長  
静嘉堂文庫美術館館長



## こうの もとあき

1943年生まれ、秋田県出身。東京大学名誉教授(日本近世絵画史)。東大の文学部教授や大学院教授を経て、秋田県立近代美術館長などを歴任。公益財団法人静嘉堂理事、文庫長兼美術館長。2017年3月まで京都美術工芸大学長。

部下ができると、その成長も書きました。大変でしたが、おかげで継続する力と、伝え方を学びました。一番大きかったのは、その日一日の仕事を自分で整理して、明日に向かうことができたことで書いている。思つてもいなかつたことが意識の下から出てきました。何かを見て「あ」と思ったそ

書き、やがて反省省を基に翌日の予定を書くようになりました。

## 日常の気づき書き留め成長

ことは大事だと思っています。だから今は、「エスコヤマ」の正社員なら約70人にも任意で報告書を書いてもらっています。3年目からはメールでもいいです。が、1、2年目は手書きです。一応決まった様式はありますが、私がそうだったように、どんどん変えていけばいい。自分の仕事を整理して、明日へ向かう姿勢や具体的な目標を決めるためのものです。

いた子どものころから、今も変わっていないんです。伝えたい、発表したい。子どもの時のその体験が、今に一番役立っているんです。今の子どもたちにも、「書きたくなる」ような体験をしてほしい文もスラスラ書けました。母親に「聞いて聞いて！」と言つて、

手書きの文字は、書き手の人柄だけでなく、筆を持つ時の心も伝えます。人を引きつけてやまないその魅力を、各界で活躍する方々に語ってもらいました。

「人の心」は、伊屋宗達、尾形光琳、酒井抱一、神坂雪佳といった画家に代表される琳派。世代を超えた私淑一代学でつながることで、平安時代以来の大和絵に基づく工良の一人、光悦の存在が大きい。

「日本のダ・ビンチ」とも言われる光悦は本当に天才です。その書はオリジナリティと、「光悦流」という流派が生まれるほどの影響力を持ちました。光悦という書家がいた」とことです。

私自身は、小学校の授業で毛筆を手にした程度で、今も金釘流で書いているのですが、美術研究の中で「書」に親しむ機会を得ました。光悦は、室町時代の

工芸はその下に位置づけられます。しかし、東洋の「書芸」は、西洋にないものであり、東洋美術のシンボリックな存在だと考えています。

日本の「書」のオリジンは中国にあります。日本列島の風土の中で、独特のものに変容、成熟しました。「日本文化」そのものです。だからこそ、日本人は大切にしなければならない「日本の美」を発信する若者が育つことを願っています。

## 「書芸」は東洋美術の象徴

を岡倉天心から

蓮院流の影響を受けたとされます。が、その「とんがつた」個性に魅了されます。

1889年に岡倉天心、高橋健三らによって創刊された世界最古の月刊美術雑誌である「國華」の編集委員を務めています。以前には、「もっと書を扱おう」と特集号を編んだこともあります。西洋美術の世界では、建築、彫刻、絵画がファインアート(純粹美術)と呼ばれて一段上にあり、

美術研究でも、作品を制作するだけでなく、論文を書くことが当然、必要です。文字、文章を正しく読み取り、正しく記述することになります。課題に

が、その基本になります。

日本美術史など

を岡倉天心から

説き起こした、美しい文章です。

それを一文字ずつ書き写すこと

で、学生の心に何か大きなものが残ることを期待しています。

2017年春には京都市東山区に新ギャンパスを開設しました。

京都国立博物館や宗達筆模写など

で知られる養源院も近く、本物

に触れることができるこの地か

ら、「日本の美」を発信する若者が育つことを願っています。

小山 進 氏



## こやま すすむ

1964年、京都市生まれ。83年に大阪あべの辻調理師専門学校を卒業し、スイス菓子ハイジに入社。99年に退社、コンサルタント業を経て2003年、兵庫県三田市に「パティシエエスコヤマ」を開業。

# 字から伝わる

八木 早希 氏  
フリー・アナウンサー



## やぎ さき

1978年米国生まれ。大阪市阿倍野区育ち。同志社大学文学部卒業後、毎日放送アナウンサーを経てフリーに。高校2年秋から1年間、米国シアトルに留学。2014年から16年、同志社大で客員教授。

2011年にフリー・アナウンサーになり、東京、大阪などで、テレビ、ラジオのお仕事をさせて頂いています。オフに筆を持つようになったのは13年の、ひとつの幸せな出会いがきっかけでした。移動の航空機内で流れる映像で、イスラエルに生まれ、東京で活動されている墨絵作家の存在を知りました。教室は都内の自宅から通える所がありました。墨絵には言葉も書くことがあります。「ずっと憧れてきた『書』に取り組む時が、やっと来た！」

季節の風物や、大好きな奈良の風景に、言葉を添えます。例えば柿の横には「女心と秋の空(笑)」。

先生は「紙をはみ出すような発想で、自由に書きなさい」と言って下さいます。この「自由」を本来の意味で味わうために、書の基本を身につけようと、実家のある大阪市の書道教室で、一から習い始めました。父親の仕事の関係で、就学前は

## 息子と書習う日待ち遠しい

2011年にフリー・アナウンサーになり、東京、大阪などで、テレビ、ラジオのお仕事をさせて頂いています。オフに筆を持つようになったのは13年の、ひとつの幸せな出会いがきっかけでした。移動の航空機内で流れる映像で、イスラエルに生まれ、東京で活動されている墨絵作家の存在を知りました。教室は都内の自宅から通える所がありました。墨絵には言葉も書くことがあります。「ずっと憧れてきた『書』に取り組む時が、やっと来た！」

季節の風物や、大好きな奈良の風景に、言葉を添えます。例えば柿の横には「女心と秋の空(笑)」。

先生は「紙をはみ出すような発想で、自由に書きなさい」と言って下さいます。この「自由」を本来の意味で味わうために、書の基本を身につけようと、実家のある大阪市の書道教室で、一から習い始めました。父親の仕事の関係で、就学前は

## 川上 浩司 氏

京都大学デザイン学ユニット特定教授



## かわかみ ひろし

1964年島根県生まれ。工学博士。1989年京都大学大学院工学研究科修了。岡山大学工学部助手を経て、98年京都大学情報学研究科システム科学専攻助教授(後に准教授)。2014年から現職。著書に「不便から生まれるデザイン」。

## 「不利益」体験に価値を実感

が進み、自分でやらせてもらえないことを嫌い、不利益を得られるモノやシステムを作ることをしています。

社会ではいけないと考え、不利益を得られるモノやシステムを作ることをしています。

手書き文字は不利益に通じます。学生と議論しながら思いついたアイデアをホワイトボードに書いて、文字の大ささや汚さも情報になります。走り書きの所は、アイデアが次々出てきて「慌てて書いたんだな」というよう

ではない。デジタルネイティブと言われる今の子どもたちはこの約束事を信じ切っていて、それは実は不幸なこと。自分が起こしたアクションがどう返ってくるか、モノの理に沿った体験がしにくいくとき、文字の大ささや汚さも

は、アイデアが次々出てきて「慌

て書いたんだな」というよう

な、この時こう考えたという「熱

い、不便である

られない。頭を使わないといけないと感じます。

手書き文字は不利益に通じま

す。学生と議論しながら思いつ

いたアイデアをホワイトボードに書

くとき、文字の大ささや汚さも

情報になります。走り書きの所

は、アイデアが次々出てきて「慌

て書いたんだな」というよう

な、この時こう考えたという「熱

い、不便である

られない。頭を使わないといけないと感じます。

手書き文字は不利益に通じま

す。学生と議論しながら思いつ

いたアイデアをホワイトボードに書

くとき、文字の大ささや汚さも

情報になります。走り書きの所

は、アイデアが次々出てきて「慌

て書いたんだな」というよう

な、この時こう考えたという「熱

い、不便である

られない。頭を使わないといけないと感じます。

手書き文字は不利益に通じま

す。学生と議論しながら思いつ

いたアイデアをホワイトボードに書

くとき、文字の大ささや汚さも

情報になります。走り書きの所

は、アイデアが次々出てきて「慌

て書いたんだな」というよう

な、この時こう考えたという「熱

い、不便である

られない。頭を使わないといけないと感じます。

手書き文字は不利益に通じま

す。学生と議論しながら思いつ

いたアイデアをホワイトボードに書

くとき、文字の大ささや汚さも

情報になります。走り書きの所

は、アイデアが次々出てきて「慌

て書いたんだな」というよう

な、この時こう考えたという「熱

い、不便である

られない。頭を使わないといけないと感じます。

手書き文字は不利益に通じま

す。学生と議論ながら思いつ

いたアイデアをホワイトボードに書

くとき、文字の大ささや汚さも

情報になります。走り書きの所

は、アイデアが次々出てきて「慌

て書いたんだな」というよう

な、この時こう考えたという「熱

い、不便である

られない。頭を使わないといけないと感じます。

手書き文字は不利益に通じま

す。学生と議論ながら思いつ

いたアイデアをホワイトボードに書

くとき、文字の大ささや汚さも

情報になります。走り書きの所

は、アイデアが次々出てきて「慌

て書いたんだな」というよう

な、この時こう考えたという「熱

い、不便である

られない。頭を使わないといけないと感じます。

手書き文字は不利益に通じま

す。学生と議論ながら思いつ

いたアイデアをホワイトボードに書

くとき、文字の大ささや汚さも

情報になります。走り書きの所

は、アイデアが次々出てきて「慌

て書いたんだな」というよう

な、この時こう考えたという「熱

い、不便である

られない。頭を使わないといけないと感じます。

手書き文字は不利益に通じま

す。学生と議論ながら思いつ

いたアイデアをホワイトボードに書

くとき、文字の大ささや汚さも

情報になります。走り書きの所

は、アイデアが次々出てきて「慌

て書いたんだな」というよう

な、この時こう考えたという「熱

い、不便である

られない。頭を使わないといけないと感じます。

手書き文字は不利益に通じま

す。学生と議論ながら思いつ

いたアイデアをホワイトボードに書

くとき、文字の大ささや汚さも

情報になります。走り書きの所

は、アイデアが次々出てきて「慌

て書いたんだな」というよう

な、この時こう考えたという「熱

い、不便である

られない。頭を使わないといけないと感じます。

手書き文字は不利益に通じま

す。学生と議論ながら思いつ

いたアイデアをホワイトボードに書

くとき、文字の大ささや汚さも

情報になります。走り書きの所

は、アイデアが次々出てきて「慌

て書いたんだな」というよう

な、この時こう考えたという「熱

い、不便である

られない。頭を使わないといけないと感じます。

手書き文字は不利益に通じま

す。学生と議論ながら思いつ

いたアイデアをホワイトボードに書

くとき、文字の大ささや汚さも

情報になります。走り書きの所

は、アイデアが次々出てきて「慌

て書いたんだな」というよう

な、この時こう考えたという「熱

い、不便である

られない。頭を使わないといけないと感じます。

手書き文字は不利益に通じま

す。学生と議論ながら思いつ

いたアイデアをホワイトボードに書

くとき、文字の大ささや汚さも

情報になります。走り書きの所

は、アイデアが次々出てきて「慌

て書いたんだな」というよう

な、この時こう考えたという「熱

い、不便である

られない。頭を使わないといけないと感じます。

手書き文字は不利益に通じま

す。学生と議論ながら思いつ

いたアイデアをホワイトボードに書

くとき、文字の大ささや汚さも

情報になります。走り書きの所

は、アイデアが次々出てきて「慌

て書いたんだな」というよう

な、この時こう考えたという「熱

い、不便である

られない。頭を使わないといけないと感じます。

手書き文字は不利益に通じま

す。学生と議論ながら思いつ

いたアイデアをホワイトボードに書

くとき、文字の大ささや汚さも

情報になります。走り書きの所

は、アイデアが次々出てきて「慌

て書いたんだな」というよう

な、この時こう考えたという「熱

い、不便である

られない。頭を使わないといけないと感じます。

手書き文字は不利益に通じま

す。学生と議論ながら思いつ

いたアイデアをホワイトボードに書

くとき、文字の大ささや汚さも

情報になります。走り書きの所

は、アイデアが次々出てきて「慌

て書いたんだな」というよう

な、この時こう考えたという「熱

い、不便である

られない。頭を使わないといけないと感じます。

手書き文字は不利益に通じま

す。学生と議論ながら思いつ

いたアイデアをホワイトボードに書

くとき、文字の大ささや汚さも

情報になります。走り書きの所

は、アイデアが次々出てきて「慌

て書いたんだな」というよう

な、この時こう考えたという「熱

い、不便である

られない。頭を使わないといけないと感じます。

手書き文字は不利益に通じま

す。学生と議論ながら思いつ

いたアイデアをホワイトボードに書

くとき、文字の大ささや汚さも

情報になります。走り書きの所

は、アイデアが次々出てきて「慌

て書いたんだな」というよう

な、この時こう考えたという「熱

い、不便である

られない。頭を使わないといけないと感じます。

手書き文字は不利益に通じま

す。学生と議論ながら思いつ

いたアイデアをホワイトボードに書

くとき、文字の大ささや汚さも

情報になります。走り書きの所

は、アイデアが次々出てきて「慌

て書いたんだな」というよう

な、この時こう考えたという「熱

い、不便である

られない。頭を使わないといけないと感じます。

手書き文字は不利益に通じま

す。学生と議論ながら思いつ

いたアイデアをホワイトボードに書

くとき、文字の大ささや汚さも

情報になります。走り書きの所

は、アイデアが次々出てきて「慌

て書いたんだな」というよう

な、この時こう考えたという「熱

い、不便である

られない。頭を使わないといけないと感じます。

手書き文字は不利益に通じま

す。学生と議論ながら思いつ

いたアイデアをホワイトボードに書

くとき、文字の大ささや汚さも

情報になります。走り書きの所

は、アイデアが次々出てきて「慌

て書いたんだな」というよう

な、この時こう考えたという「熱

い、不便である

られない。頭を使わないといけないと感じます。

手書き文字は不利益に通じま

す。学生と議論ながら思いつ

いたアイデアをホワイトボードに書

くとき、文字の大ささや汚さも

情報になります。走り書きの所

は、アイデアが次々出てきて「慌

て書いたんだな」というよう

な、この時こう考えたという「熱

い、不便である

られない。頭を使わないといけないと感じます。

手書き文字は不利益に通じま

す。学生と議論ながら思いつ

# 書く楽しさ

## 第12回 手書き文字ばんざい！

書道を通して手書きの良さを体験してもらう「第12回手書き文字ばんざい！」が平成28年10月16日、大阪市中央区のOMMビルで開かれ、幼児からお年寄りまで約300人が参加しました。様々な人の作品や、書に取り組む姿勢に触ることのできるめったにない機会に、参加者は互いに刺激を受けつつ、「書くこと」を楽しみました。

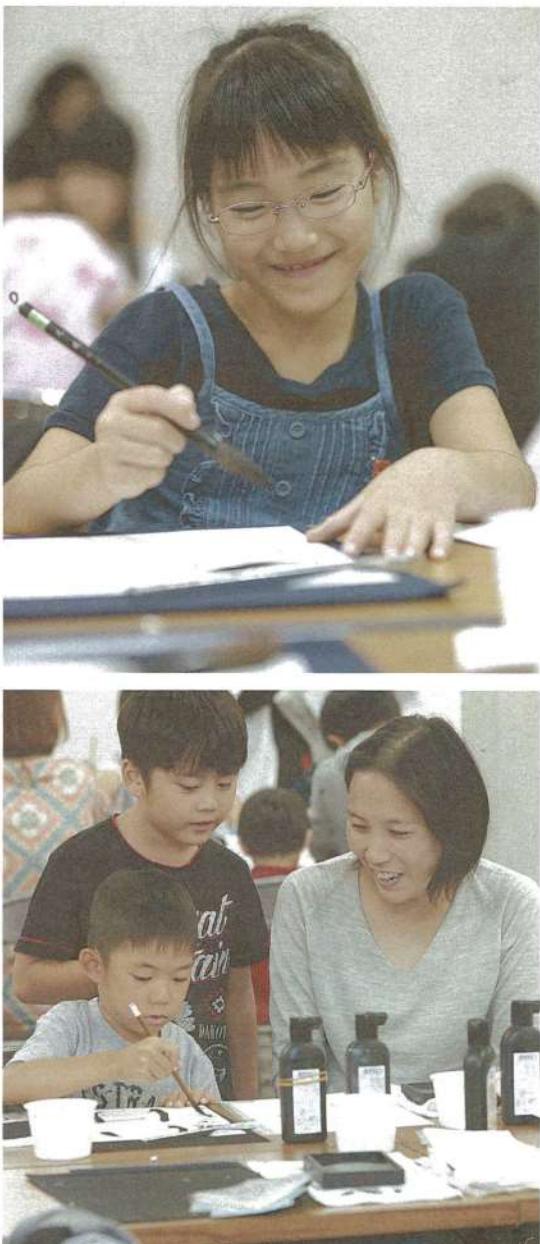
**手書き文字ばんざい！**  
読書週間初日の10月27日が「文字・活字文化の日」に制定された2005年、本院と読売新聞社が始め、毎年10月に開催している。

## 参加者300人 和やかに

作家の中村裕美子・本院二科審査員の大作揮毫で始まりました。参加者が見守る中、19世紀のフランス人画家、カミーユ・コローの言葉「自然こそすべてのはじまりである」と書き上げた中村さん。「四季折々の美しい自然に思いをはせて、一点一画に気持ちを込めて書きました。今日はみなぎりと、墨と筆で文字を書くことの楽しさを共有できたらと思います」と話す、大きな手を浴びました。

本部長が主催者を代表して挨拶。執行役員事業部長がパソコンを使つて挨拶。読売新聞大阪本社編集部長が本部長と一緒に手を浴びました。

吉川薫仙・本院理事長は、「手で書く文字には、その人の気持ちが表れます。自分の気持ちを相手に正しく理解してもらうためには、どんな字をどのように書いていたらいいのか。今日一日楽しく過ごしていくたがく中で、そのこと





## 手書きの文字 書写・書道ってすばらしい きれいに美しく 字を書こう の美しさは文化のバロメーター

「第12回手書き文字ばんざい!」の作品は、平成28年11月11日から13日まで大阪市中央区のNHK大阪放送局1階アトリウムで展示され、3日間で360人が見学しました。観光で訪れた人々が足を運び、「子どもの字は元気で個性的で気に入りました」「墨をすって書道をしていたところを思い出しました」と感想を話し、「孫が名前を見るために来場した夫婦は「孫が名前を漢字で書くのを初めて見ました。成長を感じられてうれしい」と目を細めています。また、外国人観光客らが興味深そうに写真を撮っている姿も多くの見られました。

## NHK大阪でも 作品を展示

# 五感で味わう



締めくくりに、「第21回全日本高校・大学生書道展」第11回全日本小学生・中学生書道紙上展の成績優秀者13人による学生代表者揮毫が行われ、丁寧に「一字一文」書き上げていく様子を参加者は息を詰めて見守り、出来上がった作品に感嘆の声を上げていました。

このほか会場には巨大なパネルボードを置いた寄せ書きコーナーも用意され、筆やフエルトペン、絵の具を使い、子どもたちは伸び伸びと文字を書く面白さを体験していました。

書道教室に姉妹で通う小学校1年の富松はるかちゃん(7)は家族で参加。「漢字に挑戦したくて『春』と『雲』を選びました。書道は書いた分だけ上手になるから好き」と目を輝かし、妹のこはるちゃん(4)は「書道教室ではまだ鉛筆で書いています。お

姉さんが筆を使っているのを見ていて、ずっとやってみたかった。初めての毛筆は面白い」と元気よく、仮名を書いていました。

5年間通った書道教室をやめてから、ほぼ半年ぶりに筆を持つたという中学1年生の乾翔太君(12)は「やさ

しそうな『春』を選んだだけれど、右へ払う部分のバランスが難しかった。筆の感覚を忘れているけれど、それをつかめれば書道は楽しい」と、書き上げた作品を並べて、うれしそうに見比べていました。

アメリカ人の鍋島ティナさ



## 好きな言葉寄せ書き

### 平成29年 第13回手書き文字ばんざい!

【日時】平成29年10月15日(日)午後1~4時

【会場】OMMビル2階Cホール(大阪市中央区)

【申込】代表者の住所、氏名、電話番号、参加者数、参加者全員の氏名、年齢、学年を明記して、FAXかはがきで日本書芸院事務所宛てにお申し込みください。※参加無料。小学生以上が対象で定員300人(先着順)。小中学生は保護者同伴。用具類は不要。

【主催】公益社団法人日本書芸院、読売新聞社

【後援】文部科学省、大阪府教育委員会、

大阪市教育委員会、読売テレビ(申請予定)

【協賛】あかしや、呉竹、サクラクレパス、ゼブラ、トンボ鉛筆、パイロットコーポレーション、ぺんてる、墨運堂(平成29年2月現在の予定)

ん(31)は5年前に小学生のとき初めて見て書道に興味を持ち、数か月前から書道を習って、いつの間にか動いて線の形が変わった。筆の微妙な動きで線の形が変わるから、書道は奥が深い。日本では学校の授業でも習うことができるのでうらやまし

い。今日もみんな上手ですね」と展示された子どもの作品を見ていました。参加者は席りがけには壁に影をするなど、書く楽しさを存分に味わえた一日となりました。





あいさつする吉川蕉仙理事長

▶ 書の振興への熱い思いが語られた記念式典

華やかに行われた祝賀会



公益社団法人日本書芸院の創立70周年を記念した式典・祝賀会が平成28年(2016年)11月23日、大阪市北区中之島のリーガロイヤルホテルで開催され、各界から560人が出席、日本の書道界をリードしてきた本院の節目の年にふさわしい華やいだ雰囲気に包まれました。



私たち「日本の書道文化」のユネスコ無形文化遺産登録を応援しています。



### 記念講演



高階 秀爾 先生

1932年生まれ。東京大学教授、国立西洋美術館長などを歴任。東京大学名誉教授、公益財團法人西洋美術振興財團理事長、日本藝術院会員、文化勲章受章者

### 書と美術 近い関係

記念式典に先立ち、大原美術館館長の高階秀爾先生が「書と美術表現を支えるもの」をテーマに記念講演を行いました。

高階先生は15～20世紀の西洋絵画について、仏哲学者ミシェル・フーコーの言葉などを引きながら記念講演を行いました。

出席者は、雨を斜めの細い線で描いた与謝野村の表現や、光悦作「舟橋時絵硯箱」など、スクリーンに映写される豊富な国版に興味深そうに見入り、「高階美学」の世界に、時を忘れて浸っていました。

い昭和21年(1946年)に創立、翌22年(1947年)に社団法人の認可を受け、平成22年(2010年)に公益社団法人の認可を受けました。現在、全国1万200人の社員が、「伝統と創意」の基本理念のもと、日々研さんを重ねています。また、各世代を網

でにぎわった特別展「王羲之から空海へ―日中の名筆の競演」の成功に謝意を表し、「先人の努力をふまえつつ、今後も書を愛する方々の英知を結集して、書の発展に貢献したい」と固い決

### 英知結集 書の発展を

書の振興、普及に貢献

でにぎわった特別展「王羲之から空海へ―日中の名筆の競演」の成功に謝意を表し、「先人の努力をふまえつつ、今後も書を愛する方々の英知を結集して、書の発展に貢献したい」と固い決

ました。

また、本院の活動や書の振興、普及に貢献

した本院最高顧問4人、同名誉顧問6人が、功労者として顕彰されました。続く祝賀会では、日本の書の現状や振興に向けた課題に関して、なごやかなうちにも活発な意見が交わされました。

意を述べました。

続いて、松井一郎・大阪府知事、吉村洋文・大阪市長、関芳弘・衆院議員(環境副大臣)、杉山美邦・読売新聞大阪本社代表取締役社長、荒船清彦・日本書道ユネスコ登録推進協議会会長(公益財團法人全員連盟事務局長)から祝辞があり、それぞれの立場から、「今後とも力を合わせて、日本の伝統文化である書の発展にむけて努力したい」との力強い言葉を頂戴しました。

羅した書道展のほか、書道の普及を目的とした各種行事を積極的に開催しています。特に近年は、書道教育の充実と、「日本の書道」の国連教育・科学・文化機関(ユネスコ)無形文化遺産への登録を目指す運動を、関係団体と力を合わせて進めています。

吉村洋文・大阪市長、関芳弘・衆院議員(環境副大臣)、杉山美邦・衆院議員(環境副大臣)、書道国議員連盟事務局長)から祝辞があり、それぞれの立場から、「今後とも力を合わせて、日本の伝統文化である書の発展にむけて努力したい」との力強い言葉を頂戴しました。